

巻頭言



技術センター長 藤久保 昌彦

広島大学技術センターは、広島大学の技術職員の全学組織として平成16年4月に発足しました。センター化のねらいは、技術職員の組織を一元化することによって、全学的観点から人材の有効活用を図るとともに、技術支援を組織的・計画的に実行することにあります。技術センターに所属する職員の業務は、大きく分けて施設・センターや講座・研究室で特定分野の教育・研究支援に携わる業務と、情報処理、工作、安全衛生管理など多様な学問分野を側面的に支える業務があります。そのいずれもが大学の教育・研究活動に不可欠であり、また科学技術の高度化に伴って新たな技術・技能の吸収に継続的に努めなければならない業務です。そうした中で、組織化に伴って特に先行的に進めたい内容として、上述の情報処理、工作、安全衛生管理などの全学サービス機能の充実を考えています。削減傾向の人的規模の中で、既存の教育・研究支援業務を維持・充実しながら、いかに新たなサービスを提供するか、技術センターの真価が問われるところです。現在、運営会議、企画調整部会等の場で具体的な議論を進めていますが、新たなサービスの実現には、技術職員自身の意識改革と新たな技術の修得ならびに業務効率化への不断の努力が必要であることは言うまでもありません。

技術センターが全学組織として機能するためには、職員相互の情報交流と業務内容および成果を広くセンター外に情報発信することが大切です。技術センターでは、平成17年度に技術センターホームページを立ち上げました。またセンター職員の業務内容を説明するパンフレットを作成し、学内に広く配布しました。これらは、技術センターの活動内容の周知に大いに役立っていると自負しています。一方、技術センター内では、平成16年度に引き続いて技術センター研修会を開催し、ポスター発表セッションを含めて、技術開発および教育・研究支援の成果について情報交換を行いました。そしてこの度、この技術センター報告集第2号の発刊の運びとなりました。本冊子は、平成17年度研修会の発表論文と投稿論文および研修報告から構成されています。第1号に続いて充実した内容の報告集が完成しましたことは大きな喜びです。各位におかれては、本報告集を通じて技術センターの活動内容をご理解いただくと共に、ご批判・ご鞭撻をいただければ幸いです。

最後に、本報告集の編集、加えて平成17年度は技術センターパンフレット作成にもご尽力いただいた濁川清美委員長を始めとする技術センター報告集編集委員会の方々、そして種々ご援助いただいた学術部研究推進グループの皆様にこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

平成18年3月